

議会だより

【発行】永平寺町議会

【編集】議会だより特別委員会

12月定例議会



調理実習 上志比小学校

特集 区長と懇談会を開催!!

もくじ

12月定例議会より 予算案審議	2～3	一般質問	7～22
決算特別委員会審査報告	4	1ch行政チャンネル週間番組表 区長と議会の懇談会	22 23
各委員会報告	5～6	視察研修報告 編集後記	24

のか住民に知らせていただきたい。

答 AEDは十九年度に町内のすべての小・中学校、幼稚園等二十施設、本年度は五施設、計二十五施設と消防本部に設置しましたが、さらに今回十二施設の追加をお願いしました。設置一覧表も議会に配布します。

問 余熱館、施設の運営という点では、温泉施設の教訓にもなると思うので、利用状況と赤字なのか黒字なのかを示していただきたい。

答 十九年度、余熱館の入館料と施設使用料は約二千六百万円、運営経費は約七千七百万円と約五千万円のマイナス。入場者は、七万八千人ほどとなっています。

問 水田営農条件整備事業にともなう田植え機の買入、補助率はどのようなっているのか。

答 今回は、国の緊急総合対策というところで、原油価格の高騰に耐え得る生産体制を確立するための農業機械に対する助成で、国が二分の一、町が四分の一。移植ユニットは三分の一です。

問 国庫補助金で、地域活性化・緊急安心実現総合対策交付金は、各種新規事業に対し補助金が出ると思いますが、これは国の経済対策ということ

なのか、それとも、安心安全のまちづくりとして交付されているのか。景気対策に関するものなら、今回の使途については妥当か。

答 自治体が安心実現のための緊急総合対策に対し、積極的に総合的な対策に取り組み、もって地域活性化に資することができるようにと、この制度ができました。自治体を実施計画を作り、実施される事業に本町では上限約八百万円が交付されるもので、今回、子育て支援対策、教育支援、住まい、防災対策の児童を地震からまもる学校づくり等に利用したものです。

後期高齢者医療 特別会計補正予算

問 会計の歳入で、三千万円と、保険料の軽減措置部分が示されているが、軽減に見合う金額、国からきちんと来るのか。この制度、まだ一年もたないうちに軽減を行う、それくらいにひどい制度だと国が認めている表れではないのか。

答 四月にこの制度が始まりましたが、住民からいろいろご意見が出、それで一応軽減策として低所得者対策を行ったもので、お金は広域連合に国から直接入ることになっていきます。

介護保険特別会計補正予算

問 この予算により要介護認定モデルの調査項目を介護判定の簡略化として、今回減らすというが、これで認定ランクの引き下がる人も出てくるという。地方の実態に合わない認定調査項目の減少は問題だ。

答 今回の介護認定システムの見直しは、要介護認定の適正化、効率化が図れるように、審査判定の見直しが行われると聞いています。調査項目も十四項目減らし六項目増となり、一次判定の結果に変化もあると聞いています。認定も早くなり判定も適正になるのではないかと思っています。

永平寺町デイサービスセンター の指定管理者の指定について

問 これまでは社会福祉協議会に委託していたが、町の直営ということを経営や利用、また高齢者の状況をつかむこともできた。全ての施設を指定管理にしようということは、行政のチェックも今までは異なることとなる。指定管理と管理運営委託とは大違い。町の直営施設は残すべきだ。

答 指定管理については、住民ニーズの多様化、複雑化、さらに財政状況もあり、また、少子・高齢化や人口の減少、それに団塊の世代の退職

と、自治体を取り巻く状況も大きく変わっています。その中で民間活力の導入の手法として指定管理制度を利用するものです。それに、行政コストの縮減が図られるという目的もあり、デイサービスセンターは指定管理には最も適している施設だと考えています。

農山漁村活性化プロジェクト 支援交付金の計画について

問 この地域の区画整理は、反当たり幾らで計算されているのか。また、その金額でできるのか。第二は、この事業の図面を見るのは初めて、総合的な図面も説明も議会にされていない。中部縦貫道も含め、全体像の議会への説明を願いたい。

答 区画整理部分の工事費は反当たり約二百万円、計約八千五百万円となっています。

もう少し早く議会に説明すべきでしたが、法手続きの準備と事業費も不明確でした。さらに中縦や荒川改修、パイパス問題等も並行して実施するということもあり、調整がなかなかできず、今議会に急遽お願いしたということです。



決算特別委員会審査報告

委員長 宮塚 幹雄

平成20年9月12日、第6回定例議会において、本委員会に付託された。

①議案第42号

平成19年度一般会計、特別会計の決算認定。

②議案第43号

平成19年度上水道事業会計の決算認定。

上記、2案について、延べ6日間にわたり慎重に審査を行いました。

審査にあたっては、以下の2点を重視し行ないました。

①予算執行の効果を客観的に判断し、市民の要望に答えられていたか。

②予算執行が効率的に実施されたか。

その結果、予算執行はおおむね適正と認められるが、今後、重要な課題となる行財政改革の推進に、尚一層強力に推し進め、事務事業の見直し改善、職員の資質向上に向けた強力な取り組みが不可欠になってくると考えられます。

その結果、以下の意見を付して妥当と認め、原案通り認定することに決定し、同年、12月議会において委員長報告を行ないました。

○総括意見（抜粋）

(1) 決算成果表の表現が一部分ではあるが、不透明と思われる事項が認められる。成果内容の表現を的確にし充実を図られたい。

○担当課別指摘事項

◆総務課

- ・合併以前より、各地で補助している事業を明確に示して欲しい
- ・職員研修は、先進地視察の充実を図るべし（研修結果の報告）
- ・上志比温泉の主管を明確に示せ

◆消防本部

- ・消防広域化に対しての方向性は
- ・不用額が有りながら常備機材不足でないか
- ・AEDの配置場所を含め効果の広報を

◆企画財政課

- ・不用額が3億5千万と多い。内容を示せ
- ・各地振興会への指導（活性化）の方法は

◆税務課

- ・滞納世帯についての原因等は分析してるのか

◆監理課

- ・工事管理、検査職員の研修充実を図れ
- ・信頼の有る経験者の配置を

◆住民生活課

- ・就学児童生徒の保健未加入者の問題点は
- ・国保における医療費の実体は

◆環境課

- ・粗大ゴミ収集で引き取らないゴミの種類をわかりやすく広報を
- ・大量不法投棄ゴミの処理は迅速に対応を

◆福祉保健課

- ・委託事務（社会福祉協議会除）の委託先、内容補助金は
- ・介護保険特別会計の未収分12%の実体は

◆子育て支援課

- ・松岡地区の幼稚園を卒園し小学校に入学した場合、各幼稚園ごとに差がある。教育内容の統一化は出来ないのか

◆建設課

- ・土地開発事業の特別会計は年度ごとに説明を
- ・松岡河川公園の利用が高い、トイレの常設は可能ではないか、国交省と話し合いを

◆農林課

- ・農協には補助金を出している。ヘリ、コンバイン等は農家側にたつて、料金体系を見直して欲しい
- ・吉野地区土地開発特別会計の年度ごと報告を
- ・合併して3年、猟友会の協力体制の整備を

◆商工観光課

- ・中小企業貸し付けには十分配慮を、行政は金融機関と連絡を密に良き対策を
- ・広域イントラの活用が不十分と思われる。広報の要項に不十分な点はないのか

◆下水道課（農業集落排水事業特別会計）

- ・吉野地区は下水道に近い将来連結される時期がくるが、速やかに対応できるのか

◆学校教育課

- ・学校評議員は地域の意見を反映させ交流における効果を示してほしい
- ・遠距離通学児童生徒の支援について県内の状況を調査し適時策をこうじて欲しい
- ・講座における講師謝礼に不公平感があるが

◆生涯学習課

- ・地域の特性を活かした文化活動を活発に

◆議会事務局

- ・議会運営に関する事務消耗品等が不足だが



現地視察

総務常任委員会

委員長 滝波 登喜男

当委員会は、十二月十五日、一名欠席のもと開催いたしました。協議事項は、今議会に提案されている議案についてです。

承認第十一号

二十年度一般会計補正予算の専決処分

永平寺支所にあった商工観光課を消防庁舎へ移転することに伴う工事費用です。

議案第五十六号

二十年度一般会計補正予算

国の経済・金融危機対策として「地域活性化・緊急安心実現総合対策交付金」を創設、本町に八百万円余が交付されます。歳出では、起債の繰上げ償還並びに借り換えで六千六百万余、福祉保健課、子育て支援課の本町移転に伴う経費、福井坂井地区広域事務組合清掃センターから温浴施設（余熱館）へ蒸気を送っている高温排水管の布設替え負担金、AED（除細動器）の購入などです。

質疑では、AED設置箇所や取扱いの指導、職員採用試験や昇任試験の実施状況などの質問が出されました。答弁では、AED設置箇所は三十八箇所、学校、幼稚園、福祉施設等、新しく設置する箇所は集中的

に管理、技術習得を行っていきます。

また、今年の職員採用は、一般職四十九名受験し、合格内定者は三名、保育士二十五名中三名の内定者うち二人が現在臨時雇用しています。昇任試験は、課長補佐試験十二名、課長試験五名受験しました。

議案第六十五号

税条例の一部改正

住民税普通徴収の全期前納報奨金制度廃止の改正です。

委員からは、改正の理由、改正効果、固定資産税の取り扱いなどの質問が出され、特別徴収者が増え不公平感があり、行財政改革の一端で約五百万円の財源確保ができる。固定資産税は、一年遅れて実施したいなどの答弁がありました。

以上、議案及び承認についてはすべて原案の通り可決致しました。

その他

○ 職員の飲酒運転に対する網紀粛正については、十九年に規則を強化し、毎月二回の理事課長会で指示しています。

○ 消防の体制、広域化も含めて、当委員会で集中審議を行うこととしました。

教育民生常任委員会

委員長 上田 誠

当常任委員会は十二月十五日開催し、補正予算等の案件について審議した。

承認第十一号 一般会計補正予算（専決処分）は上志比給食センター洗浄機修理の件は全員一致で承認した。

議案第五十六号 一般会計補正予算については（住民生活関係）国民健康保険、老人保健の特別会計繰出金の減額（五百四十六万円）。清掃センター工事負担金（八百七万円）が主である。（福祉保健関係）地域生活支援（障害者福祉）百九十四万円。

老人福祉施設の燃料費の増百六十七万円。ガン検診受診者増加による百四十六万円増加が主である。（子育て、教育関係）幼稚園、幼稚園の防犯カメラ増設として二百五十六万円。小・中学校理科教材備品として三百万円が主である。質問ではガン検診者の状況について、地域生活支援の内容、繰出金の減の要因について、工事負担金の割合など補正額の内容について質問があり、全員一致で認めるとした。

議案第五十七号 国民健康保険特別会計補正予算については、総額一億三千八百六十万円の追加であり、療養諸費で一般者は四千四百万円、退職者は四千八百万円、一般高額医療費二千四百万円、後期高齢者支援金七百七十万円を、償還金千四百五十

万円が主である。増額の要因は当初見込みより急増したためである。質問は今後の国保税額について、二十一年度は変えず基金を取り崩す必要、二十二年度は改定が必要になる。退職者の費用の高額はガンの人が多いため、ガン検診、特定検診などで改善を図る。また、対象年齢の制度も今年より変わる。委員会として全員一致で認めるとした。

議案第五十八号 後期高齢者特別会計補正予算については、総額九百万円の減額であるが、保険料の軽減措置によるものである。質問として普通徴収が増加した要因について、制度の理解がされておらず今後は対応をしていくとのことである。委員会として全員一致で認めるとした。

議案第五十九号 老人保険特別会計補正予算については、総額五千万円の減額であるが、制度の変更（後期高齢者保険）による当初見込みの少ないことによるものであり、平成二十二年でなくなる会計である。委員会として全員一致で認めるとした。

議案第六十号 介護保険特別会計補正予算については、総額三千三百五十万円の減額であるが、保険給付の増減であり、居宅介護サービス二千五百万円減、地域密着型介護サービス五百四十万円、施設介護サービス二千円減、介護予防サービス百六十万円、制度変更によるシステム改



平成 21 年 成人式



産業建設常任委員会

委員長 松倉 寛治

当常任委員会は、十二月十六日、全員出席のもとで開催しました。

議案第五十六号

平成二十年永平寺町一般会計補正予算について

団体等の補助について監査はしているのか、事業費の補助の割合は、除雪についての質問がありました。

議案第六十一号

平成二十年永平寺町簡易水道事業特別会計補正予算について

使用料の増えたことについて、起債の繰り上げ償還の効果について質問がありました。利子分約三千万円の効果との回答がありました。

議案第六十二号

平成二十年永平寺町下水道事業特別会計補正予算について

議案第六十一号と同様、起債の繰り上げ償還により、利子相当分七千九百万円の効果の回答がありました。

議案第六十三号

平成二十年永平寺町農業集落排水事業特別会計補正予算について

上志比地区の汚泥の処理方法について質問があり、肥料として利用の回答がありました。

議案第六十四号

平成二十年永平寺町土地開発事業特別会計補正予算について

議案第六十九号

農山漁村活性化プロジェクト支援

交付金の計画について

平成二十一年度の工事内容、地権者に対する説明、荒川改修工事との関連等についての質問がありました。

議案第七十号

字区域の変更について

道路整備に必要な財源確保を求める意見書の提出について

発議第五号

道路整備に必要な財源確保を求める意見書の提出について

以上八件は、いずれも原案の通り全会一致で承認しました。

その他質疑について(主なもの)

問 機能補償道路及び中部縦貫道路の計画の中に古墳があると聞いているがどこで調査するのか。

答 機能補償道路は県が、中部縦貫道は国が対応する。

問 吉峰寺、四季の森、永平寺、サンサンホール、天竜寺等の案内板の設置をしてほしい。

答 今後検討する。

問 町の花、梅を植樹してしてほしい。

答 全国植樹祭の前に梅の植樹を計画している。また桜の苗木が現在二百本あり、今年度中に二百本を植樹していきますので、この苗木を四季の森、松岡公園、九頭竜川の堤防等に植樹したいと思っています。

修六百三十万円が主である。質問として、制度改正の内容、特定高齢者の増加、現場の声、地域密着刑介護サービスの現状などの質問がある。要介護者の認定の適正化、介護予防という立場での啓蒙や、介護運営協議会で対応の充実を図るであった。委員会として(一名保留)認めるとした。

議案第六十六号 国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定については、出産育児一時金を三万円加算するものであり、二十一年十月には四十二万円に引き上げるものである。委員会として全員一致で認めるとした。

議案第六十七号・六十八号 老人福祉センター、デイサービスセンターの指定管理者の指定については、永平寺町社会福祉協議会を指定するものであり、質問として、期間、メリット、直営を残す必要や、他事業者の考えなどの質問がある。期間は、介護保険の関係、経済面など総合的にみて指定とした。委員会として(一名反対)認めるとした。

その他 放課後児童クラブの改善、(各地区の現状より)上志比体育館の耐震、松岡西幼稚園と松岡幼稚園の関係、無保険の子供への対応の意見が出された。学路の安全の確保、PTAと学校の関係、社会教育主事の資格などについても意見が出された。

12月定例議会

そこが聞きたい!

一般質問

第七回定例会において、十六名の議員が町政全般について、一般質問を行いました。質疑と答弁は次のとおりです。一般質問は議事録にもとづき質問議員がまとめています。

平成二十一年度予算の、編成の基本方針について



齊藤 則男

齊藤 今日の急速な経済状況下において、その情勢は大変きびしいものがあります。景気浮揚対策としての事業等、また、地域経済の活性化の一端となるような、思い切った予算を作成してみてもどうか、新年度予算の編成にむけての、基本的な考え方、方針について伺いをします。
総務理事 国では、第二次予算の提出を予定しております。本町の平成二十一年度の予算編成は、十二月より予算計上の調整作業に入りますが、今後の国の施策や、この二次補正予算の具体的な内容を見きわめ、適格に判断し、国の制度を活用するなど、迅速な対応を図り、この予算

に反映させていきたいと考えております。

ボランティアグループの育成について

齊藤 町内の、ボランティアグループや個人等、その実態等はどのように把握されているのか。町内のボランティア活動者に対し、町としては、どのように対応し、どのような指導等をされているのか、ボランティア活動者の育成、指導等について、伺いします。

福祉保険課長

社会福祉協議会でボランティアセンターの事務局を設け、推進しており、活動をしている人、これから始めたい人、活動を希望したり依頼する方法がわからない場合、また悩みノウハウに関する相談窓口、各種研修や講座等を開きながら、人材を育成し、組織化を促進しております。

副町長

行政にとりましては、行政のスリム化、効率化に大きな力になろうかと思えます。さらには、住民参加型のまちづくりにも、大変貴重な存在だろうと判断しております。今まで以上に力を入れていくべきであろうと判断しております。

収集した古民具について

齊藤 収集した古民具のことについて



古民具

て、活用等について、教育委員会等で、協議等は、されたのかどうか。収集してある、古民具等の状況について、その民具の数はその保管の状況等はどうかについて、現在の状況について、伺いをします。

生涯学習課長

現在は、これらの資料を展示するスペースがないことから、倉庫や公民館においてあるのが現状です。教育委員会では、今後の展示、活用につきまして、四季の森文化会館に併設しております、図書館の移転が完了した後、資料館としてリニューアルしたいと考えているところです。

高等学校の、新設（誘致）について

齊藤 九月の定例議会において、高等学校の、新設または、誘致はどうかと、提案をしましたが、このこと

について、教育委員会等で、話題として、協議等をされたことがあるのかないのか、その内容について、伺いをします。

教育長

今年の九月の定例教育委員会におきまして、庶務報告ということとしております。少子化傾向等の諸般の事情により、高等学校の誘致は困難であるということも考えられ、教育委員会では高校誘致に向けての協議はいたしております。

齊藤

公立校でも、私立校でも、また、専門の特殊な学校や、分校等でも、また、新設校が困難ならば、町内にある、既設の施設等を活用する等々の、さまざまな視野から、考えてみては、いかがでしょうか。

町長

例えば私立の高等学校とか、あるいは、再編の中で地理的にこの永平寺町を選んでいただけるといことなどは今後県の教育委員会にも申し上げていきたいと思っております。

※そのほか、子供はほしいが、出産等に費用がかかり大変という声が聞かれることから。若者が定着する活力ある町にするための施策として、また少子化対策、定住人口の増を図る意をこめ、安心して出産し、子育てができる町として、出産にかかる費用等に対する、町独自の、助成制度創設についての、提案をいたしました。
(齊藤)

機能補償道路について



竹澤 一敏

竹澤 道路は最も基本的な社会基盤であり、地域の均衡ある発展を図るために欠かせない行政財産との認識を持っています。

轟地区は平成十九年十月、物件移転契約を完了し、用地買収契約も交渉中との報告を受けているが、ある地権者からルートにおける文章内容で同意が得られないと聞いているが、現在はどうなっているのか。

また、野中地区においても平成十九年八月、路線測量を発注し、路線測量ルートが決まれば集落に説明し、協力をお願いすると聞いているがその後の経過はどうなっているのか。更に、平成二十四年度には機能補償道路が完成



機能補償道路

するとなっているが、その見直しについてもお尋ねをいたします。

建設課長 一般県道栃神谷鳴鹿森田線、機能補償道路の現状ですが、轟地区については、物件移転補償契約も完了し、用地買収についてもおおむね契約済みであります。ルートの同意及び土地の境界確認は了解をいただいております。規約についても、県の方で交渉を行っています。

野中地区ですが、ルートについては決定しており現在、町道との交差点協議を行っており平成二十年十二月十六日に地元説明会を開催します。

完成の見通しですが、平成二十四年度開通目標に用地買収の完了した光明寺地区から順次工事を進めています。

永平寺口駅周辺整備計画について

竹澤 旧永平寺町当時の平成十八年

一月、永平寺口駅周辺整備計画策定報告書によると、国道四一六号線から永平寺口駅までの道路整備計画は県単事業で、町単事業として永平寺地区保健センターから永平寺口駅までの道路整備計画並びに、永平寺口駅から国道三六四号線に連絡する生活道路整備計画、永平寺口付近の整備計画が報告されています。

今回の都市再生整備計画によりまずと、国道四一六号線から永平寺口駅ま

での道路整備計画と、永平寺口付近の整備計画しか示されていませんが、永平寺口駅周辺整備計画全体の構想図はあるが、財政的なこともあり、まちづくり交付金事業、平成二十一年度から二十五年度までの事業費の枠の中で行うということと、とりあえず永平寺地区と拠点を整備するという考えてよいのかお尋ねします。

総務理事 まちづくり交付金事業については、平成二十一年度から二十五年度までの五ヶ年の事業で、今年度内に国交省のヒアリングを受け要望が採択されれば、三月中に内示を得ることになっている。この計画については、当初の永平寺口駅周辺整備計画をもとに、今年度永平寺線跡地整備を含めて新たに都市再生計画、まちづくり交付金事業での計画を策定した。

今後、まちづくり交付金事業完了後に、当初の計画である永平寺口の駅周辺整備計画と全体構想についても財政耐力を考慮いたしましたして県と協議を重ね、大本山永平寺の玄関口としてふさわしい計画となるよう事業内容を精査して新しい町として段階的に見直しも含めて進めていきたいと考えています。

竹澤 ここまで進展したのも松本町長の熱意と積極的なご活躍によるものと感謝をいたし、一日も早く着工できるようにお願いします。

自主防災組織について



河合 永充

河合 各区で自主防災組織が立ち上がってきているが、地区によっては取り組みに温度差があると聞いている。松岡兼定島などでは、区民挙げての取り組みで災害に備えている。災害時にはスムーズに近所の人々が助け合える、そのためにも災害に対する意識を訓練などを通して持ってもらいたくためにも、行政からの指導・啓発を行って欲しい。活動を促すためどのように行っているか？

総務課長 現在は九十の地域の内



八十七の地域で自主防災組織が組織されています。育成強化を重点的に取り組むことで、研修会あるいは説明会といったものを実施してきました。

この他組織のリーダー研修会も十月に開催しました。また、県のリーダー研修会もあり、積極的に参加をお願いしてきました。そして、町の職員、消防署員が直接地域に出向き、地区ごとの組織での研修会を今年度より取組んでおり、九つの地区で研修会を開催しました。今後とも研修会・訓練等を積極的に開催していきたいと考えています。

少子・高齢化が進む中、特徴を持った教育を

河合 永平寺町には三つの中学校があり、例えば一つの中学校には勉学に力をいれる、一つの中学校はゆとりを持った教育を行う、一つの中学校は部活動や課外活動に力を入れるなどの特色を持たせたらどうか？そして、地区の学区をなくして、自由に学びたい学校を選択できるようなしてはどうか？現在のように一つの中学校でいろいろ試みることは、この多様化しているニーズのなか難しいと思う。

三つの中学校が一つの大きな永平寺町の中学校という考え方を持ってみては？学校同士でいろいろ考え競

い合って、情熱のある先生や保護者の意見を大いに聞き、前向きな特色を出してはどうか？この提案についてどう思われるか？

教育長 全国の自治体で小中学校で選択制を導入している自治体は十四％あるそうです。今後増えていくことも考えられますが、逆に選択制を、地元の連帯感が希薄になることを危惧し廃止するということも聞いています。

永平寺町では生徒や保護者の事情等で校区以外の学校へ就学を希望すれば、ほぼ許可している状況でございます。正式の学校選択制については全国の状況を勘案しながら対応していきたいと考えています。



松岡中学校

河合 地域の連帯感の話をされましたが、私は逆に、面積がそんなに広くない永平寺町において、各地区の子供達が一緒に学ぶことによって、将来的には本当に一つの町になっていき団結していけるようになるのではと思う。少子化に向けた教育、特色ある教育をお願いします。

不況の中、税収の減が予想されるが対策は？

河合 二十年は後半から一気に景気が悪くなり来年度の予算から影響が出始めると思うが、来年度の予算では経費や事業等の削減等どのように考えているか？

総務理事 予算編成に当たり、経費等の費用対効果を考える上で事務事業ごとに行政事務評価シートを作成して、それぞれの事業ごとに事業効果、達成度をランクづけして予算編成時に事務事業の見直しを行いましたと思います。また、新規事業につきましては、一定の期限を設けましてその効果などを評価して、見直しなどを図り、適切な事業運営を図っていきたくと考えています。

児童館の現状に

問題があるが



酒井 要

酒井 上志比地区にある児童館が大変手狭で問題も起きる状態だと思うが、他の地区の児童館も同じだと思う。利用している児童は大変不便を強いられています。児童館条例に健全な遊びを通して

集団及び個別指導実施、また、自主的な活動に対する支援となっている。現在、やすらぎの郷のふれあいセンターに二十七名が登録されているが、一年生と二、三年生に分けて二ヶ所の研修室に分かれて使用しているが、児童に不都合な机とイスを利用させている。町長、どんな感じを受けていますか。

町長 上志比児童館ですが、児童館も児童クラブもあり、また、町内には既存の建物を使用、不便もあると思う。なるべく自由に児童館の役割を果たすようにしなければならぬ。今までの建物を使っているのでもいろいろあると思うが、少しずつ改善していきたい。

酒井 借り物の中ですから他の団体の会議になりますと狭い部屋に閉じ込められ、子供のストレスでけんかが絶えない。十二月から二月までは



上志比地区児童館

他の団体の会議があり、子供を部屋から出さないでほしいと言われる状態だ。三ヶ所ある部屋のうち奥まった会議室と間の壁をくり抜くことはできないのか。

子育て支援課長 ふれあい教室の東側であります介護教室だと思いません。関係機関と協議させていただきます。

酒井 児童館として多いときは四十四、五名になる。東側の仕切りでなく通路を作れば広く使用できると思う。また、子供が体調を崩したときなど休ませるところがない。児童を預けるものとしてどう思うのか。

子育て支援課長 上志比の保健センターで対応させていただくよう考

えている。

酒井 児童館運営に関し、第二日曜日と第四土曜日は開いているが、第二日曜日は先生だけで誰もいないとのこと、先生方も大変不安がっているが。

子育て支援課長 議員が言われる通り、指導員だけが在中しておりません。今後上司と協議しながら研究していきたいと思えます。

酒井 時節柄想像のつかない事件も起きています。日曜日になると児童館だけが空いているのは大変不安だと思う。指導者にしても大変心配をしておられました。安全面のために必ず手を打ってもらいたい。また、子供の過ごしやすい場に改善することが行政の大きな役目ではないかと思えます。



学校教育における地元 歴史遺産の教育について

小畑 健
伝

小畑 本町には永平寺を初めたくさんの歴史文化遺産や自然遺産があります。眺望の素晴らしい二本松山古墳から出土した金・銀メッキの冠は日本で一番古い冠として有名です。又天龍寺は、江戸時代初期ここを治めていた松平昌勝公の母親の菩提寺で、昌勝公は徳川家康のひ孫にあたります。同代中期には昌勝公の遺徳をしのんで昌勝公の木像を奉り、今でも御像祭りとしてにぎわっています。さらに同代後期には、俳人の松尾芭蕉がここを訪れて、あの有名な「奥の細道」の一句を読んだ句碑が残されています。「物書きて 扇引きさく 余波哉」ですが「余波」と言う言葉がいろいろな所で使われているようでもあります。このように、本町には外にもすぐれた遺産が有ろうかと思えますが、果して学校教育の中でどのような位置付けで教えられているのか、お伺い致します。

教育理事 地元の歴史遺産に触れることは、教育においても大切なことと思っております。管内の小学三、四年生では、総合学習の中で地域の

名所旧跡をを探索しマップ作りを行っています。六年生は社会学習の中で、地域の古墳の生い立ちや、国史跡の松岡古墳群の歴史を学習しています。一方松岡地区の小学校では、松岡藩及び藩主松平昌勝公についても学習し、余波の会からも資料をいただきそれをもとに学習をしています。中学校では選択社会科で松岡古墳群の学習をしています。古代フェスティバルでは、中学生や古代っ子クラブの小学生たちに手伝っていただき、体験学習を行っています。上志比小学校では、社会科授業の中で地区のお寺や神社を調査して発表し、昔話の白蛇伝説や光明寺の話などを紙芝居にして、後輩に引き継いでいると聞いています。このように地域の歴史を学習し、地元の人達とつながりを持つことは重要なことと認識し、積極的に取り組みたいと思っております。

小畑 子供のうちに地元の文化遺産や自然遺産を知っておくことは大切なことだと思います。大人になって大いに役立つし、地元を自慢できることは自身の生き方に自信が持てて、その後の人生を豊かにすると思えます。これからも地元永平寺町を大事にしていきます。

観光地永平寺の複合的活用法について

小畑 今年の県内観光地の観光客が、前年より伸びたと県の情報として報道されました。景気の低迷により海外旅行から国内旅行にシフトしたのが大きな要因のようです。本町の観光拠点の大本山永平寺はどうでしたか。

商工観光課長 平成十九年一月から十二月までの本県の観光地の観光客数は千七百七十四万二千人で、平成二十年九月までは九百四万五千人、平成十九年九月の前年同期は八百八十四万七千人と前年比二・二%の微増となります。大本山永平寺の平成十九年は五十八万一千人で、平成二十年十一月末で五十六万八千人で、十二月を昨年並とした場合、平成二十年は六十万人程度となり三・二%の増加と思っています。この要因は永平寺三世徹通禪師七百回御遠忌が挙げられます。

小畑 本町には自然環境にすぐれた資源がたくさんありますが、特に大仏林道を利用し、これと永平寺を結びつけ相乗効果を狙ってほしいと思います。大本山永平寺のすぐ近くに、本町上空を飛ぶ鳥の気分になれる、大変景観の良い資源が眠っていると感じます。それと上志比地区の吉峰寺、松岡地区の天龍寺と大本山永平寺は、

禅で結ばれています。そこには精進料理や座禅に俳句などでアピールできるものがあると思います。要するに地域にある資源をどう生かして、付加価値を高めた観光事業ができるかだろうと思いますがご所見をお伺い致します。

商工観光課長 広域基幹林道大仏景観に恵まれた林道です。当林道と平行して道元禪師が、修行の道として開設した祖跡コースが永平寺と吉峰寺を結んでいます。年間五百人程度が遠足や登山に利用しています。また吉峰寺には二千人、天龍寺には五千人が年間訪れています。本町はホームページにおいて祖跡コースを紹介しPRしているところです。今後も永平寺を含めた観光コース、散策コースを広くPRしたいと考えています。



永平寺 門前

消防の常備機材について



宮塚 幹 雄

宮塚 安心安全のまちづくり、特に人命救助の観点から、機材の常備について、私が、本年見学させてもらった計四回の訓練と消防署員の意見発表会から特に感じたことがあります。

人命救助の機材不足、整備遅れを危惧しました。有毒ガス対処、水難救助機材においては交代出来るセットが無い、これでは人命救助どころか二次災害にもなりかねない。

人命に関わる事なので、質問の趣旨を理解し答弁をお願いしたい。
消防長 化学防護服については、消防庁の消防力整備指針により、レベルC対応の防護服三着がワンセットになっています。

昨年より急激に発生している硫化水素に対応する防護服は十五着保有していますが、レベルA、B対応の防護服は保有していません。

しかし、災害の複雑多様化、大規模化の傾向にあり、これらの機材は必要不可欠だと思いますので、整備充実に一層推進したいと思っています。

水難機材の整備ですが、重機材二セツト(潜水ポンベと其に付随する機材)とそれ以外の機材は四人分を保育して

ます。

水難救助には、種別があり池とか沼とかの静水救助、流れのある河川の流水救助、河川、ダム、湖水等での潜水救助活動があります。

一級河川九頭龍川それから永平寺ダムを管内に持つ当町として、不足する機材については県広域連合消防総合応援協定があります。

費用対効果等優先順位を充分勘案検討し町部局と協議しながら積極的に整備推進したいと考えています。

資機材の整備には、担当課と充分協議のうえ、町長部局と検討してまいりたいと思っています。

宮塚 消防団が十分団に再編されましたがポンプ車、小型積載ポンプの配備と各分団の機材配備にバラツキはないのか説明願いたい。

消防長 消防団に配備してある消防自動車は十台、小型動力ポンプ積載車十六台です。機材は探照灯、ホース等必要な機材は一律に配備しています。

分団によっては、消防力の大きい小さいはありますが、消防力均一化を図っています。

町内の標識を明確に

宮塚 合併して、二年十ヶ月過ぎましたが、新町としての標識設定が遅れていると思います。地元地区の事は住民の方は判りますが、他地区の方、行



お館椿 (松岡葵)

町の花、「梅」について



伊藤 博夫

政地区以外の方は永平寺町の行政施設や各所の名所旧跡、自然景観の案内板や説明板が不足していると思います。是非、永平寺町独特の特徴ある案内板や標識を、親切的な町づくりの一環として配慮をお願いしたい。

商工観光課長 案内板は、役場本庁とえちぜん鉄道、松岡、観音町駅、国道四一六沿い上志比地区案内板、旧永平寺区にも合併以前より設置されています。

しかし、文化財や社寺、名勝、史跡等の表示案内板は若干設置されていますが、十分ではないと思っています。観光目的に訪れる方に対して、おもてなしとかサービスマンにおきまして必要であり、町をPR宣伝する手段としても有効であると考えていますので、今後、計画的に整備したいと考えています。



町の花 梅

総務課長 「町の花」「町の木」については合併一周年記念式典後、町の広報紙やホームページ等に常時記載しており、またケーブルテレビ等においても映像等で町民の方にお知らせしております。町の花並びに木、そして町民指標

伊藤 平成十九年四月二十二日合併一周年記念式典にあわせて「町の花」「町の木」「町民指標」を発表されたが、木である「アブラギリ」、通称スシの葉は祭りやお盆、そして日常使われる「木っ葉寿司」に使用されていることから親しみを持って知っている

が、町の花「梅」については道元禪師が梅の木や花を愛好されたことで決定したようですが、今だ町民には浸透していないのでは、合併して三年目を迎えたが、これまでの取り組みは。

の普及、啓発につきましては、延びゆく永平寺町町民運動推進協議会が中心になって取り組んでおり、いろんな団体の会議や研修会等々の冒頭に町民指標等も唱和をしていただいております。

生涯学習課長 当課におきましては町民指標のポスター等をつくり役場、学校、幼児園等公共施設のほか七十五カ所張り、また、町内全区の集落センターとか公民館へも掲示をお願いしております、その他会議、大きな大会、成人式などには必ず町民指標を唱和しており、そのほかチラシ配布により町花、町木の確認をしていただいております。

伊藤 緑の村にあります、アジサイ園のような植樹関係も含めてお願いします。

日中友好都市である 帳家港市から本町への 来訪計画は

伊藤 旧松岡町と中国の帳家港市とのつながりは、合併以前から町を初め民間人、大学と交流しており二〇〇六年十一月には交流都市として調印式を行い、二〇〇七年十一月十六日には町民の寄贈により桜の苗木を帳家港市の東苑に植樹して来ましたが、今年度は帳家港市から本町への来訪の計画があると期待しております。

すが、今どのような計画になっているのか、お伺いをいたします。

総務課長 本年四月に帳家港市の外事弁公室より、この秋頃、安全研修団を派遣する計画があると非公式ではあったが連絡があり、本町の防災に関する行政、また安全に関する行政、企業の生産面での安全対策を中心に六日間程度の研修をしたいとの内容で報告を受けましたが、五月十二日に発生しました四川省の大地震の救援活動に従事すること、来日を中止したいとの連絡を受けました、その後、来日計画の連絡を受けていないのが現状でございます。

助成金、補助金について

伊藤 平成十九年度予算、決算と平成二十年度の予算で助成金、補助金の金額と執行率はどのようになっているのか。

総務理事 平成十九年度の予算における補助金等の金額は三億八、五百四十三万一千円で決算では、三億五、百七十三万三千円となっており、その執行率は九一・一％です、また二十年度の予算は三億六、五百五十五万円となっております。

伊藤 夢プラン育成事業支援事業補助金として十九年度二百万円そして決算では二十八万四千九百二十四円、そして二十年度の予算では二百万円

計上してあるが、実態と進捗状況は。
総務課長 この事業は、地域住民がみずから望むまちを自らの手で夢を持ってつくり上げる活動を支援する事業で、これまでに伝統芸能の継承活動や青少年の育成活動、また環境保護活動などに支援してきており、事業費の二分の一以内で十万円を限度として支援しております。

伊藤 住宅用太陽光発電設備や福井の伝説的民家普及促進事業補助金の状況を説明ください。

建設課長 太陽光発電設備促進事業は県の土木部から十九年七月九日付で事業終了の通知があり取り止めますが、二十年度は環境意識や保全に積極的に取り組むため、県内で本町のみ補助事業の予算措置しております。また伝統的民家普及促進事業の状況は、十九・二十年度三百万円の予算措置をしておりますが申請はありませんでした。

伊藤 政策面で予算計上したものは、もつと広報誌やケーブルテレビ等で町民にわかるようPRをして頂きたい。

※「木造住宅耐震改修促進の状況」「住宅用火災報知器の設置状況」「県内の固定資産税の前納奨励金廃止状況」も質問しましたが紙面の都合上割愛させて頂きます。(伊藤)

利率の高い借金の前倒し返済は、どの程度進んでいるのか



原田 武紀

原田 自治体の収入に対する借金返済額の割合を示す指標「実質公債費比率」が、平成十八年決算時から新たに導入された。これは従来の「公債費負担比率」は一般会計のみを対象としていたが、借金の実態をより厳格に示すため、下水道や簡易水道等の特別会計、ごみ焼却やケーブルテレビ等の一部事務組合の借金等も対象に含め、公表する比率は当該年度も含めた過去三ヶ年の平均数値となっている。

その公表比率が、本町は平成十八年度決算時十九%で、起債許可基準の十八%を超えたため、翌年の平成十九年度から七年間の借金削減目標を示す「公債費負担適正化計画」が義務づけられ、その計画の中では、利率の高い借金の前倒し（繰上）返済の目標額は、利率の低いものへの借り換え九億四百万円を含む総額十二億四百万円となっているが、実効額はどの程度になるのか。

総務理事 平成十八年度から二十年度までの三年間で、借金の繰り上げ償還（前倒し返済）は総額十五億三千四百百万円で、その内高利率から低利率へ

の借り換え分は、九億三千九百万円です。完済額は五億九千五百万円となります。また、借り換えを含めた公債費（借金）の利子減効果は、約二億四千五百万円と推計しています。

原田 そうしますと、適正化計画の目標額十二億四百万円に対して、三年間累計の実績額は、十五億三千四百万円で、今年度末ですでに、目標達成はなされたわけですが、新年度（平成二十一年度）の取り組みはどうなるのか。

総務理事 公的資金の「保証金免除繰り上げ償還制度」は、国の予算の範囲内で町の行政改革等の取り組みを国が審査し、額が決定されます。本町は今年度末で内示額以上の繰り上げ償還（前倒し返済）を行いましたので、平成二十一年度は国の承認が得られないことから、この制度の活用はできません。

原田 ゴミ焼却の「広域圏」、下水道の「五領川」、ケーブルテレビの「こしの国」等の一部事務組合の借金返済のための負担金（繰出金）は、平成十九年度決算でどの位の額になるのか。

総務理事 「実質公債費比率」の対象となる平成十九年度の一部事務組合の負担金ですが、総額で約三億七千七百万円です。内訳は「福井坂井地区広域市町村圏」分が一億八千八百万円、「五領川公共下水道」分が一億三千八百万円、「こしの国広域」分が五千万

円となっています。

「土砂災害警戒区域等の指定」とは

原田 先日、地区の町内会館で、県と町合同の「土砂災害防止法に係る区域指定とハザードマップ作成」の説明会が開催された。

その要旨は「県内には未だに七千箇所近くの土砂災害危険箇所が存在するが、このすべての危険箇所に対して災害を未然に防ぐ施設（砂防ダムやガケのよう壁）の整備がベストであるが、施設の整備には多大な費用と時間がかかる。そこで、当面の対策は「土砂災害防止法」に基づいて、土砂災害が発生したら、どの区域まで土砂が到達するのか、どのくらいの力で家につづかるのか、についてあらかじめ調査を行



ハザードマップ検討会

い、その調査結果に基づいて「警戒区域」と「特別警戒区域」を指定する。町は、非常時には「災害対策本部」を設置して、住民に情報の提供や自主的な非難も促す。」という内容であった。

要は、「危険箇所に住住している住民は、町からの危険情報により、非常時には自主的に避難して、土砂災害から自分の命と財産を守ってほしい。」というのですが、本町にはどのぐらいの危険箇所が存在するのか。

建設課長 本町には、土石流の恐れがある危険溪流が百八十五箇所、がけ崩れの危険箇所が百八十六箇所、地滑りの危険箇所が三箇所、危険箇所は、計三百七十四箇所あります。

土石流危険溪流百八十五箇所中、二十六箇所、砂防ダム二十四基、治山堰堤二十三基が整備されています。また、その百八十五箇所中、町の地域防災計画では、三十九箇所が土石流危険溪流に指定されていますが、その指定区域に限れば、松岡清水、石舟、上吉野等六箇所に、砂防ダムが五基、治山堰堤等が二基設置されています。また、ガケ崩れ危険百八十六箇所中、六十一箇所にはすでによう壁が整備されています。

これ等をまとめた「土砂災害ハザードマップ」は平成二十一年度予算に計上して、できるだけ早い時期に町民に配布します。

下水道の整備状況について



渡辺 善春

渡辺 下水道の未接続世帯の割合は。

下水道課長 本町における人口別の水洗化率は、平成十九年度末現在で九二・一パーセントです。福井県平均より四・三パーセント上回っております。

本町における未接続世帯数は、松岡公共下水道事業区域では三百八十九世帯、永平寺地区特定環境公共下水道地域においては九十一世帯、松岡吉野地区農業集落排水事業区域において二十一世帯、上志比地区農業集落排水事業区域で六十一世帯となっております。

渡辺 未接続世帯への対策と、未接続としている原因の把握はできているのか。

下水道課長 加入促進については、九月十日の「下水道の日」に合わせた水洗化率向上のための街頭啓発活動をはじめ、広報永平寺並びに町のホームページなどにてPR活動を行ってまいりました。今後は職員が対象世帯に個別訪問を行い接続をお願いしていきたいと考えております。

未接続の原因については、合併浄

化槽を既に設置してあるとか、雨水管が供用開始になる前に合併浄化槽を設置してしまったという世帯や、老人世帯であり今後取り壊す予定だという世帯、また家屋が古いために新築時に接続予定であるという例など、世帯それぞれにいろんな理由があるようです。

渡辺 一日も早く下水道に接続していただけるよう、課長の答弁のように職員が各家庭に回る形で進めていただきたい。広報やチラシを不特定多数に配るやり方では、事業の推進にならないのではないかと思います。

吉野地区における農業集落排水についてお尋ねします。吉野地区は西野中の団地造成をはじめ、住民数が増加傾向にあります。下水道の処理場の能力は大丈夫か。

下水道課長 吉野地区の集落排水施設は平成七年四月に供用開始しました。現在同地区内の水洗化率は低いわけですが、今回松岡西野中の十九世帯をも含め、将来的に水洗化率が百パーセントとなった場合には、日最大計画汚水量を超過します。その際には公共下水へ接続し、そちらの方へ流していくという方法をとる必要があると考えています。その準備を進める必要はありますが、今のところ早急な対策を講ずる必要はないと考えています。

永平寺温泉の

取り組みについて

渡辺 永平寺温泉について、今後どのような取り組みをしていくのか、またスケジュールはどうなっているのか。

上志比支所長 本町には永平寺温泉以外にも多くの事業があり優先度があります。総合的に判断しながら計画を進めております。

この永平寺温泉の資源を、全ての町民に利用していただくことで、町民の健康づくりと健康増進の場を提供し、ひいては地域を超えた多世代間の交流促進の場を創造することなど、町民サービスの向上を図るため、施設整備に向けた検討を重ねており



永平寺温泉担当

ます。実施時期につきましても、まだまだ解決すべき点がありますので、それらの問題解決に向けて、現在検討をしております。議会とも十分協議を行い、できるだけ早い時期に事業を進めたいと思っております。

渡辺 町長の所信表明の中でも、温浴施設にしたいとありました。私としては、ただの温浴施設というのではなく、福祉施設という観点で見れば、元気で長生きする町民を創出する一助となるのではないのでしょうか。

町長は町の均衡ある発展と申されますが、私は永平寺温泉は上志比地区の活性化のために、また福祉の面からも必要であると考えます。

上志比支所長 温浴施設としてだけでなく、福祉などほかの用途としての活用方法について、検討してみたいと思います。

渡辺 今後は、泉質や効能また施設の概要などについて、町民にも情報を提供していただきたいと思っております。



高齢者福祉と認知サポーター及び介護サポーターについて



長谷川 茂雄

長谷川 九月十五日の敬老の日を前にした、全国の百歳以上の高齢者は三万六千二百七十六人で、県内でも四百二十五人の方が居られます。このような現実から、厚生労働省は認知症の高齢者が今後急増し、七年後には二百五十万人に達するだろうと予測しています。当町でもこれらを踏まえ、行政と町民が「協働」する認知症サポーターをと思っておりますが、考え方や及び認識をお聞きしたい。

福祉保健課長 認知症サポーターとは、認知症の正しい知識、対応の仕方を理解し、個人の出来る範囲での認知症の方への手助け及び応援かと思っております。町の考え方と致しましては障害を理解し、サポートし、住み慣れた地域で穏やかに暮らせるよう援助する大切な組織と認識しています。

認知症サポーターの養成という観点では、社会福祉協議会と連携し福祉総合相談の一環として開催し、現在百六十三名の方が受講されています。

予防検診による把握に関しては、

集団検診による基本チェックリストにより予防、助言、健診などで実施しています。

早期発見は、各地域で実施しています。ふれあいサロンなどに、保健師等を派遣し認知症にならない方法や、講座などを行っています。また参加者の様子によっては介護予防教室への参加を促すような対応をいたしております。

長谷川 地域包括支援センター役割と、今後介護や支援の恐れのある特定高齢者についてお尋ね致します。

福祉保健課長 地域包括支援センターは、要介護状態になる前のアドバイス、相談、ケアマネジメント等地域の情報を共有し、サポーターの方々と連携し訪問しながら体制づく

りをしているところです。特定高齢者は十一月現在八十三名です。予防事業として運動機能向上、口腔機能向上等を目的に各保険センターで、一クール十回という形で開催しています。



モニター試食会 上志比小

長谷川 介護サポーターと通所介護及び居宅介護についてお尋ね致します。

福祉保健課長 介護サポーターは介護の専門的な知識を必要としないボランティアで、話し相手、散歩の付き添い、洗濯、シーツの交換等です。本町でも制度について、前向きに考えていきたい。

居宅の訪問介護は第三期計画では、ほぼ横ばいです。しかし、通所介護は計画値を大きく上回っています。

長谷川 生活保護所帯が増えている現状での当町の対応は。

福祉保健課長 当事者と向き合い、真剣に善後策を話し合い認定申請書類は提出するものの、町の場合は福井県健康福祉センターに最終決定は委ねられているのが現状です。

長谷川 少子高齢化で存続が危惧される、伝統芸能・伝統文化への町の取り組みは。

生涯学習課長 次の世代に継承するために、また多くの町民が参加し、グループの活動が続くよう情報の提供、活動発表の機会、活動に利用で

きる施設の提供などを支援していきたい。

長谷川 食育について曹洞宗大本山永平寺の開祖道元禅師は、現代にも通じる典座の心得として「三心」の教訓を示しています。また、食する心得としても「五観の偈」を唱えています。このような観点から本町の食育推進に関する基本方針を、お尋ね致します。

農林課長 食育基本法により本町も、平成十九年三月、食育活動マニュアルを策定致しました。①食の知識、判断を高め、健全な食育習慣の実践②食の大切さを理解し、自然の恵みや食にかかわる人へ感謝の心を育てる③食を通じてコミュニケーションを深め、楽しさ、豊かさを体験する④郷土の行事食、伝承料理を学び、食文化の理解を図る⑤食の安全、安心な地元農産物を知り、地産地消の推進へ感心を深める。この五項目の基本方針により、食育の推進を図っているところです。



大不況の中、独自の 地域経済活性化策が 急がれるが



松川 正樹

松川 日本経済が大変に厳しい局面に立たされていることは衆目の一致するところでありますが、それに伴い税収の落ち込みが確実に予想されるなど最悪のシナリオにも行政として今から直ちに備える必要があります。更なる改革を推し進めることを急がなければなりません。ありとあらゆる事業や助成金の見直しは勿論、予定されている大型事業の見直しにまで踏み込む必要もありそうです。また、このような本当にムダはないかという方法論は最低限のことですが、同時に経済効果のある政策を積極的に打って出るといふ方法論もあります。いわゆる地域経済の活性化に町独自の政策はないかということとです。少なくとも、その必要性は理解していただけたらと思います。どうでしょうか。

商工観光課長 世界的に不況が進行の中、本町も非常に不況にあえいでいるという報告も受けています。国においては景気浮揚策として定額給付金を給付する予定であります。本町は、まだ明確な浮揚策はないのが現状です。**松川** 町独自の浮揚策がない現状は承

知しています。私は少なくとも地域経済の活性化のために町独自の政策が不可欠であることぐらいは認識していただけますかということ聞いています。

商工観光課長 東京都の荒川区とか日野市では、十%から十五%のプレミアムをつけた地域振興券を発行し、非常に好評でありました。商工会や地域の商店街からこれらの要望があれば町としては対応していきたいと考えています。

副町長 町の事業者の活性化のための具体的メニューは持ち合わせていませんが、商工会と意見交換の場で、お互い知恵を出し合い、そういうメニュー作りをしていきたいと思っています。例えば、定額給付金、本町に試算で三億円です。これをいかに需要に結び付けるか。こういう視点で商工会さんと知恵の出し合いをしていくことが必要でしょう。

松川 定額給付金をいかに消費に結び付けるか、地方自治体の腕の見せ所です。私も三年以上前からプレミアム付の地域振興券のようなものを発行したかどうかということを上上げていたのですが、全国的にいくつもの市や町で先を越されてしまいました。地域振興券は、私は地元お買い物券と言っています。使い方によっては経済効果を生みます。結果的には税金という

形で戻ってきます。ぜひ商工会とタイアップして新しい需要を生み出していただくことを期待しています。



永平寺町商工会

不安定な雇用状況にある 若者に支援策はないのか

松川 以前から強く感じていました。町はお産や子育て支援から始まって、教育面でも中学校ぐらいまでは手厚い支援を子供たちに行っているのですが、それ以降は子供から若者になった世代に対する支援策はほとんどないのではないかと。以前の青年団のような活動体には支援しやすいのですが、もともと若者たちは町の中では見えにくい存在です。見えにくい存在でもどこかで元気に誰もが働ける時代であれば問題はないのですが、これだけ不況になって

くると、ワーキングプアとか派遣切りという言葉に象徴されるように、若者たちも高齢者や子供たちと同様、立派な社会的弱者だと言えます。経済的に困っているのかかわらず、行政や福祉の恩恵を全く受けていないのです。町のレベルでも、手を打つべきと考えますがどうでしょうか。

商工観光課長 若者がワーキングプアに陥るような事態には社会的要因が非常に大です。町単独では対策に限界がありますので、県やハローワークからの公的機関や企業、商工会と連携しながら情報交換を取りながら安定雇用を努めていきたいと思えます。

松川 例えば、役場庁内でもワークシエアリングを導入したらどうですか。仕事の分かち合いです。五十歳ぐらいで大体、子供は独立します。それほど高い給料はいらなはずです。一日に八時間働かなくてもいいという考えです。その分、若者たちに分けてあげるので。また、「勤労は精神を磨く」というような精神論をも若者たちに教えることも必要です。精神的なケアも大切です。いろいろ考えられます。何らかの取り組みを切望します。

※「さらに開かれた教育委員会を期待する」も質問しましたが紙面の都合上割愛させて頂きます。

(松川)

本町にも常設の農産物直売所の設置を!



金元 直栄

金元 近年、地元農産物直売所の売り上げが好調で、一ヶ所平均の売り上げは八千万円と報道されている。形態も単独の店舗から、道の駅や大きなマーケットにコーナーとして設けられていたり、常設、有人の直売所が多くなっています。

食の安全が叫ばれている時だからこそ、生産者の顔が見えることが消費者の安心にもつながっていますし、生産者にとっても、高齢者の生きがい対策や健康づくりになると好評だと聞いています。何よりも、直売所の開設は町内の生産者グループへの励みにもなります。

いわゆる道の駅みたいに大きさなものではなく、運営も利用グループにまかせてしまう形態の常設の直売所、行政としてもぜひ考えてはどうか。

農林課長 農産物の直売所には、いろんな形態があります。農家直接の小規模なものからJAと農家の出資による「喜ね舎」のような直売所もあります。最近では、売上もかなり伸びていると聞いています。



議会視察信州新町地場産業開発センター

本町内には、四ヶ所の小規模な直売所がありますが、現在のところ起業グループや生産者から常設の拠点施設がほしいという要望は聞いていません。そんなことも含め今後検討したいと思えます。



火災警報器の設置促進へ、 独居老人や老々家庭、 身障者の家庭へは現物 支給してはどうか!

金元 法の改正で一般家庭でも火災警報器の設置が義務づけられ、本町では各地区での説明会や個人々住宅への訪問指導、町の設置補助もあり、設置率は八六・二%と県内でも群を抜いた高い設置率となっている。設置率向上へ課題として、一人暮らしの高齢者や高齢者夫婦、身障者宅などへの設置が挙げられるのではないかと。全国にも現物支給という例があることから、ぜひ標記の件、考えてはどうか。

消防長 現在、町内には約三百六十世帯の独居老人世帯があり、設置率は八七・四%、未設置は四十五世帯となっています。町内全体で未設置世帯は八百五十件ほどで、訪問し、直にお話しを伺いながら理解をしていただき、設置していただくほか方法はなと思っています。全国的な問題でもあるので全国の動向を注視しながら普及にあたりたいと思っています。

第四期介護保険計画の 策定に向けて本町の課題は

金元 介護保険は、当時介護は大き

な社会問題になっていったことから、社会全体で担おうと制度が創設されてきた。ところが、二度の計画の見直し等で新たな利用負担の導入や、サービスの利用制限、認定のあり方、そのものの改悪が国によって行われ、今日では社会的な支援を必要としていても制度を利用できない介護難民が生まれていると指摘されている。

来年四月から実施の第四期介護保険計画へ国は、施設の利用抑制や利用の重度化、施設の個室化、療養病床群の廃止や転換等をもくろんでいることから、本町の第四期計画が利用者や運用する現場で、実態に合ったものを作るのかどうか、本町の課題はまとめられているのか伺いたい。

内容では、人件費が安すぎて介護従事者が定着しないと云われるが、働く人々の報酬は見直されるのか。事業所の経営状況や働く人々の実態はつかめているのか。訪問介護、中でも生活援助ですが、若い人との同居の場合など、実態に合わせて利用できるようになってきているのか。それに保険料、引き上げずに済む方法はないのか。また、独自の減免制度の実施は考えないのか。

福祉保健課長 第四期の介護保険の見直しでは、介護報酬の見直しがあると聞いています。特に居宅介護支援事業所等では、単体での経営は

赤字と聞いています。報酬の見直しは人件費等に反映されるべきではないかと思えます。

訪問介護では、介護保険ではなく在宅福祉事業の軽度支援援助として、独居、老々世帯へ利用回数制限はあるものの行っています。在宅での生活を可能にする施策については検討します。

認知症など個々への対応は、関係機関と連携しながら対応も検討していきたいと思えます。

保険料は、制度が特別会計で運営していることから、安定運営が求められます。このままでは赤字になることから保険料のアップは必要です。介護保険としては、今後ますます介護予防や健康づくり等に力を入れたいかなければと思っています。

※「保険事業の徹底強化で町民の健康づくりを」も質問しましたが紙面の都合上割愛させて頂きます。
(金元)



町内商工業者に

経営支援の対策を



滝波 登喜男

滝波 百年に一度とされる金融危機がいよいよ日本の産業界に押し寄せてきた。企業倒産は六カ月連続で前年を上回り大幅なリストラが行われている。本町の実態を調査する必要があるが。

商工観光課長 経営状況の一つの目安として融資状況があげられます。県や町の融資制度では、運転資金は増加傾向にあります。設備資金は各段に低下しています。

滝波 九月から十一月にかけて、融資制度の利用が増加しているが、中には借りたくても返すめどが立たないことから借りれない方もいる。もう一度貸付け条件の見直しが必要である。

商工観光課長 町融資制度の貸し付け状況は、二十件程度で昨年とほぼ同数ですが、一件当たりの融資額は昨年より三百万円低い五百万円となっております。より利用しやすい制度とするため、返済期間の延長等についても検討していきます。

消防本署、分署の統合を

滝波 本町は、御陵地区を中心に中高層ビルが建ち、大本山の観光客や二つの大学の教員、学生、企業での外国人就労者などの交流人口が多い。この町で求められる消防は、さまざまな状況に対応できる専門知識とチームワークである。現在の一署二分署体制でそれらの訓練ができるのか。また、永平寺分署は救急車をも出動させられない。

消防長 永平寺分署は毎日二名が勤務、消防車は予備車として配置しています。確かに、一署に集約した場合効率的な消防運営となりますが、現在の体制でどれだけできるかというところで勤務しています。今後の広域化の流れの中で消防体制を見つめたいと思えます。



出初式

滝波 福井市は、大和田地区に一署建設し、それに伴いに東藤分署と森田分署を廃止する計画です。坂井市は、老朽化した金津署を新しく建設する計画です。このように他の消防では広域化の前に自分の自治体の消防を確固たるものにする動きをとっている。一度広域化になれば容易に建設することができないからである。本町も早く消防体制を確立すべきである。

町長 消防職員三十九人で一本署二分署体制をとっていますが、広域化になると本部に職員を派遣する必要が出てきます。その人数が決まらないうと体制を整えることが難しいし、それぞれメリットがございませう。

滝波 平成二十五年に広域化になると、当然職員の人事交流があるでしょう。その時、若い職員が他市に負けないような技術の習得や能力の向上が現体制でできるのか。また、二十一年四月から退職に伴い三十七人体制になるが。

町長 二十年四月に二人採用し消防学校に半年行かせていましたが、その時は実質三十七人体制で行っていました。

**厳しい財政の中で
新規事業の優先度は**

滝波 来年度以降は収入が減収とな

り、投資的経費は縮小を余儀なくする。そこで新規事業の優先度をどのようにお考えか。

総務理事 二十一年度の主な事業は、小・中学校の耐震補強、松小体育館の改築、永平寺口駅周辺整備、道路交付金事業、温泉施設整備などの具体化に取り組みたいと思います。

滝波 生活インフラを優先的に行うべきである。そこで、老朽化した志比浄化センターと耐震診断した上志比小の体育館はどうするのか。

下水道課長 下水道基本構想を二十一年度策定し、この中で延命支援事業とするか、更新するか検討していきたいと思っています。

生涯学習課長 上志比体育館の耐震はEランクです。新年度で耐震補強計画と実施計画をお願いする予定です。

滝波 一つとも急を要する事業ではないか。先の区長会との懇談会では、温浴施設に対して厳しい意見が出ている。一番手っ取り早くお金のかからない民間に売却することを考えては。

上志比支所長 事業の実施に当たっては、できる限り財政負担を軽減できる方法で、CAMU湯の廃止も検討していきます。町民の皆様にも価格で良質なサービスが提供できるように推進していきます。

**新年度予算と
行財政計画について**



小玉 益雄

小玉 一九二九年の世界恐慌以来、アメリカ合衆国のサブプライムローン問題に端を発した大規模な金融危機が実態経済に大きく影響及ぼし、世界中で経済不況が起きております。これから大変な時代に入っていくと言われております。緊張感と危機意識をもって事に当たらなければならぬと言われております。こうした中で、本町では新年度予算編成を迎



松岡小学校体育館

えるわけですが、法人税、町民税の減収が見込まれる一方、地方交付税についても多く期待することが困難な状況にあります。こうした中で予算編成に当たりますが基本方針についてお伺いいたします。

総務理事 国の景気浮揚対策、経済対策など今後国の動向的確に把握して、正確な情報収集に努めて当町の予算編成にあたりたい。新規事業はもちろん、これまで町費で賄っていた事業についても、あらゆる機会を通じて国、県営の要望を行い必要な財源確保については積極的に獲得に向けて努力していきたい。また、事業の推進にあたりましては、費用対効果を考慮いたしまして行政の簡素化、効率化をより一層推進して限られた財源の中で最大の効果が上がるような予算編成に取り組みたいというふうに考えております。

小玉 中期財政計画の中で、前年度予算より四億円増額となっているが重点を置く事業は。

総務理事 二十一年度には松岡小学校体育館の改築をこの中期財政計画の中で盛り込んでおります。財源として基金及び地方債を充てる計画をしているための増額となっております。

小玉 現在、永平寺商工会へ職員を派遣されているが、今後どう生か

れるのか。

副町長 商業の活性化についてのいろいろなビジョンを作成し、基礎となるアンケート調査を夏から秋にかけて実施し、分析結果を踏まえて次の段取りにと聞いております。

小玉 交通不便者の足となるコミュニティバスの運行と新年度での考えを。

総務課長 今年度からコミュニティバスを再編いたしました。新しい形で運行しております。特にえちぜん鉄道への接続等を考慮し、小中学生あるいは、通勤通学者等の利便に配慮をしました。また、車両につきましては、三台から一台増やして四台で運行しており、利用者数も十月現在で昨年に比べて町全体で約五百人増えております。

※「デマンド型交通」「不況の中で地元の業者に発注を」も質問しましたが紙面の都合上割愛させていただきます。(小玉)



老人保健福祉の推進に向けた第四期の介護保険の充実を!!



上田 誠

上田 平成十二年に導入された介護保険制度は、要介護者を社会的に支える仕組みとしてスタートし、平成十四年からの二期では給付費の増加が財政の圧迫、保険料の増となった。平成十七年の三期は、予防重視、自立支援を柱とし、特定高齢者の対応として地域包括支援センターの設置、基本健康診査の実施、要支援、要介護の六段階、認知症の対応として地域密着型サービスの整備が図られた。四期を迎え、介護難民、負担増、介護報酬の改定後の問題などがあるが充実に向けた施策は。

福祉保健課長 第四期は介護予防事業と高齢者に対する健康づくりが重要となる。一般高齢者支援には運動、口腔機能、認知症予防の各教室の開催と集団検診の受診。特定高齢者支援には介護予防教室の案内を加える。要支援、要介護の支援には制度利用の充実、家族の負担の軽減支援を。ネットワークづくりは、ふれあいサロンの実施や、社協の小地域福祉委員会や民生児童委員の参画を推進していく。

保健師の本来の力が発揮できる組織体制を図るべき!

上田 老人保健福祉事業、介護保険事業の充実には、保健師の活動が重要となる。地域包括支援センターと保健師が「核」となり、健康づくり推進協議会を中心に各種委員や社協と連携し、地域でのネットワークを組織し保健センターの管理は事務がサポートして保健師本来の力が発揮できる体系が必要。

福祉保健課長 地域包括支援センターを中心に保健師、関係機関と連携し推進する。現在三ヶ所を一ヶ所に集中し、本来の保健師の活動ができるよう進める。

さらなる予防保健事業の推進が必要でないか!

上田 住民アンケートでも将来の不安の中に健康が必ず上位に挙がっている。安心して健康で過ごせるまちづくりを最優先の一つにする必要が住民の要望と思う。方針に挙げる町長の所信は。

町長 現在町民の健康づくりを重点的に取り組んでいる。今後も町民の健康を第一番に考えた取り組みを行っている。

上田 平成十四年に健康増進法が成立したが、旧三町村の時から母子保健を中心にしながら保健師と各地域の保健推進員が活動を行ってきた。現在は健康づくり推進協議会と、八十五名の保

健推進員、六十名の食生活推進員が活動進めている。住民が健康で安心して生活できるように、住民の健康増進(予防)事業として、健康づくりの推進(乳幼児から高齢者まで)や健康を「守る」から「作る」という意識の向上など、地域を挙げた運動の組織作り、ネットワークづくりが必要でないか。

福祉保健課長 保健推進には地域の方や各種団体の協力が欠かせない。現在は健康づくり推進協議会を中心に地区の保健推進員、食生活改善推進員と保健師が連携して行っている。今後は組織づくり、ネットワークづくりを進めていきたいと考えている。

社会福祉の推進に向けて「地域福祉計画」の策定を!

上田 人が生活する上で豊かな社会(生活)を求める。時代とともに変わることが、現在は将来に対しての不安として、生活する上で健康、福祉がキーワードアップしている。社会福祉の基本は他人への思いやり、助け合う精神であり、誰もが人間らしい安心で充実した生活が送れる社会(地域社会、家庭環境)であり、まちづくりの基本である。平成十二年に改正された「社会福祉法」で地域福祉の推進が位置づけられ、十四年に計画策定のガイドラインが示されているが。

福祉保健課長 「健康で笑顔に満ち



平成 21 年度 成人式

たまちづくり」「思いやり、共に生きる地域をめざして」を基本理念とし、共に支え合い、助け合いの意識の形成、その仕組みとネットワーク、行政、事業所、町民の役割など基本的な方針を定め、アンケート等も実施して策定を行いたい。

上田 策定には種々の基本をおさえ、住民参画専門機関、サービス団体の協力で明確にすべき。また、社会福祉協議会が策定する「地域福祉活動計画」との関連や地域づくりのネットワーク化と連携を図るべき。

福祉保健課長 地域住民、福祉の従事者、保健関係などの立場の参画を得て福祉の推進の原点になる形で策定する。

※「住民参画社会の推進に向け、NPO、ボランティアは、協働」についても質問しましたが紙面の都合上割愛させていただきます。(上田)

二十一年度、町政の歩みは



上坂 久則

上坂 次年度の町政、予算編成を迎える時期となっておりますが、町づくりの基本的な概念を求めます。

町長 歴史を異にし発展してきた旧町村が合併した経過を踏まえ、地域の隅々まで光を当てる、調和と均衡ある町政を進めます。地域資源を十分活用し、定住促進、人口増の課題に取り組みます。住みやすい町づくりをテーマに教育力の向上、福祉の充実、子育てしやすい住環境等の充実により、誇りを持つ町としたい。厳しい財政状況ですが、町民の思いを十分活かせる事業選択しながら進めていきます。

区長会との懇談会、町財政に踏み込んだ発言、十年後の財政は

上坂 各区長会さんとの懇談会において、町財政の報告がなされた際、上志比区長会において、十年後には十億円の交付金が減額されるとの説明がなされた。財政は厳しい、悪いとのインパクトのある説明がなされたが、政権交替を含む社会情勢変化が大いにありうるのに十年後、十億

円減額するとの想定ができるのか。

総務理事 合併後十ヶ年は、特例措置を受けつつ、段階的に本来算定基準になるとのことです。制度上、合併特例措置分が減少することですが、国は新たに地域間正、地方の独自施策実施のため、地方再生対策費、頑張る地方応援プログラムといった新規の財政措置を実施し、合併時と同額の交付金となっております。今後の財政動向は、国の政策にかかっております。確かな予測十年後の想定は困難であります。長期的には減少が予想されますが、社会経済情勢、国の動向に十分注意を払いながら、安定的な財政運営に努めます。

上坂 景気の下降が感じられる今日、町民の方々は不安に感じる。執行者も議会も町民に不安を与えない、町長が述べる『笑顔が見える永平寺町』のために規律ある財政運営に努め、管理監督がなされているわけですから、財政が破たんするといった不安がないことを町民にお知らせし御理解をTVを通じて致します。

健康施設(永平寺町温泉)は!

上坂 区長会との懇談会でのことです。事業推進の手段として民間活用を利にPFI方式で検討したいとの町行政案説明がなされた。その際、

計画の案として、事業費三億円、維持管理費二十万との仮収支計算書の数字がそのまま説明された。財政が厳しいということが十分先に言うわけですから、健康施設を何か作ったらいかんのかと言うふうな、非常に私流に言えば洗脳的に近いようなと言うふう感じました。合併特例債を活用すれば、仮に三億円としても、三割〓九千万円の町負担で建設できる。この様な仮数字が一人歩きする状態を作ったのは、行政が実施時期を明示しないことではないか。

上志比支所長 財源だけの問題ではなく、他の要因等も含めた解決、見通しがついた時点で明示したい。



コミュニティバス

平成21年 第1回 永平寺町議会定例会を開会します

- ◆会期 平成21年 3月 2日(月)～23日(木)…22日間
(一般質問は3月6日、9日、10日 午前10時からの予定です)
- ◆日程 6日・9日・10日……………一般質問
11日・12日・13日……………予算特別委員会
16日・17日・18日……………各常任委員会
2日・19日・23日……………本会議
- ◆場所 本庁役場3階 議場
- ◆お問い合わせ 議会事務局 ☎61-3950(直通)

コミュニケーションバス 更なる利便性を

上坂 三年間の契約を事業者とするとの事ですが、効率的な運営、事業者の安定運営等、相互の利便性を考慮していると思うが、大学生への配慮が欠けているのでは。また、土・日の利便性が不足しているのでは？

総務課長 二つの大学、専門学校等の学生さんへの配慮を十分検討対応したい。

土・日の運行停止は利用者の活用割合は、一割にも満たないため、公共交通会議にて決定されました。しかしながら、小中学生及び高齢者の生活ニーズを今以上に把握し、他の方法も含めた形で検討致します。

1ch 行政チャンネル週間番組表

時	2月13日(金)	2月14日(土)	2月15日(日)	2月16日(月)	2月17日(火)	2月18日(水)	時
8	00 町長招集あいさつ 文字告知放送	00 本議会(後半)	00 本議会(前半)	00 一般質問 (2日目:午後後半)	00 一般質問 (2日目:午後前半)	00 一般質問 (2日目:午前)	8
9	00 一般質問 (1日目:午前)	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	9
10	文字告知放送	00 町長招集あいさつ 文字告知放送	00 本議会(後半)	00 本議会(前半)	00 一般質問 (2日目:午後後半)	00 一般質問 (2日目:午後前半)	10
11	00 一般質問 (1日目:午後前半)	00 一般質問 (1日目:午前)	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	11
12	文字告知放送	文字告知放送	00 町長招集あいさつ 文字告知放送	00 本議会(後半)	00 本議会(前半)	00 一般質問 (2日目:午後後半)	12
13	00 一般質問 (1日目:午後後半)	00 一般質問 (1日目:午後前半)	00 一般質問 (1日目:午前)	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	13
14	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	00 町長招集あいさつ 文字告知放送	00 本議会(後半)	00 本議会(前半)	14
15	00 一般質問 (2日目:午前)	00 一般質問 (1日目:午後後半)	00 一般質問 (1日目:午後前半)	00 一般質問 (1日目:午前)	文字告知放送	文字告知放送	15
16	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	00 町長招集あいさつ 文字告知放送	00 本議会(後半)	16
17	00 一般質問 (2日目:午後前半)	00 一般質問 (2日目:午前)	00 一般質問 (1日目:午後後半)	00 一般質問 (1日目:午後前半)	00 一般質問 (1日目:午前)	文字告知放送	17
18	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	00 町長招集あいさつ 文字告知放送	18
19	00 一般質問 (2日目:午後後半)	00 一般質問 (2日目:午後前半)	00 一般質問 (2日目:午前)	00 一般質問 (1日目:午後後半)	00 一般質問 (1日目:午後前半)	00 一般質問 (1日目:午前)	19
20	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	20
21	00 本議会(前半)	00 一般質問 (2日目:午後後半)	00 一般質問 (2日目:午後前半)	00 一般質問 (2日目:午前)	00 一般質問 (1日目:午後後半)	00 一般質問 (1日目:午後前半)	21
22	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	22
23							23

時	2月19日(木)	2月20日(金)	2月21日(土)	時
8	00 一般質問 (1日目:午後後半)	00 一般質問 (1日目:午後前半)	00 一般質問 (1日目:午前)	8
9	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	9
10	00 一般質問 (2日目:午前)	00 一般質問 (1日目:午後後半)	00 一般質問 (1日目:午後前半)	10
11	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	11
12	00 一般質問 (2日目:午後前半)	00 一般質問 (2日目:午前)	00 一般質問 (1日目:午後後半)	12
13	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	13
14	00 一般質問 (2日目:午後後半)	00 一般質問 (2日目:午後前半)	00 一般質問 (2日目:午前)	14
15	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	15
16	00 本議会(前半)	00 一般質問 (2日目:午後後半)	00 一般質問 (2日目:午後前半)	16
17	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	17
18	00 本議会(後半)	00 本議会(前半)	00 一般質問 (2日目:午後後半)	18
19	文字告知放送	文字告知放送	文字告知放送	19
20	00 町長招集あいさつ 文字告知放送	00 本議会(後半)	00 本議会(前半)	20
21	00 一般質問 (1日目:午前)	文字告知放送	文字告知放送	21
22	文字告知放送	00 町長招集あいさつ 文字告知放送	00 本議会(後半)	22
23			文字告知放送	23

- 町長招集あいさつ** 松本 文雄 町長
- 1日目**
- 一般質問(午前)
 - 齊藤 則男 議員 竹澤 一敏 議員
 - 河合 永充 議員 酒井 要 議員
 - 一般質問(午後前半)
 - 小畑 伝 議員 宮塚 幹雄 議員
 - 伊藤 博夫 議員
 - 一般質問(午後後半)
 - 原田 武紀 議員 渡辺 善春 議員
- 2日目**
- 一般質問(午前)
 - 長谷川茂雄 議員 松川 正樹 議員
 - 金元 直栄 議員
 - 一般質問(午後前半)
 - 金元 直栄 議員 滝登喜男 議員
 - 一般質問(午後後半)
 - 小玉 益雄 議員 上田 誠 議員
 - 上坂 久則 議員

放送期間 二〇〇九年二月十三日(金)～二月二十一日(土)

特集

開かれた議会を目指して!

平成20年度 区長と懇談会を開催!!

平成20年11月25日から27日にかけて町内三地区の区長と議会の懇談会を開催しました。

開催趣旨

平成18年2月に誕生した新町は、健全な財政運営を大きな柱に様々な課題、町民の要望・行財政改革に取り組んでいます。新町の議会としても、町民に開かれた議会、民意を町政に反映できる議会を目指して様々な議会改革、意識改革に取り組んできました。その一端として、以前から行っている一問一答方式の確認や、広報誌の発行、ケーブルテレビでの議会中継などです。この度、議会が町民に直接町政に関する情報を提供し、町民から議会活動に対する批判や意見、町政に対する提言などを直接聞く機会として「議会懇談会」を開催することにしました。平成20年度は第1回目として、3地区（松岡、永平寺、上志比）の区長と懇談会を開催しました。

◆実施内容および結果

町政の主要課題を設定し、それに対する議会の知り得た情報をもとに説明し、意見交換することとしました。

まず、課題の設定は、あらかじめ参加者にアンケートを実施し、その結果に基づき次の4点としました。

1. 松岡小学校体育館建設及び学校の耐震化
2. 永平寺駅周辺整備計画と永平寺線跡地の利活用
3. 永平寺温泉（上志比地区）の利活用計画
4. 永平寺町の財政状況

説明後、意見交換しましたが、議会は行政と異なり執行権を有していないので、町政に対する意見要望については行政に回答を求め後日報告することといたしました。

参加者数は松岡地区30名、永平寺地区22名、上志比地区15名、計67名でした。質問および意見の数は町政に関するもの17件、議会に関するものを4件でした。

民意の収集は議会の重要な仕事であります。今回多くの区長さんの参加をいただき、ご意見を聞いたことは真に意義あるものとなりました。今後議会としての信頼感を高める重要な会議となるよう継続してまいります。



◆町に対する意見・要望

- ・学校の統廃合は考えないのか。
- ・志比北小の耐震診断はE判定で、補強計画が21年度と22年度に分かれている。同じ年度できないのか。
- ・永平寺線跡地を散策道にした場合、緑の村入り口道路との交差点は見通しが悪く危険である。対策を。
- ・中部縦貫自動車道の現状を明らかにして。
- ・一般県道栃神谷・鳴鹿森田線（機能補償道路）の早期全面開通を。
- ・県道勝山丸岡線の傷みが激しいので早期の舗装を。
- ・上志比の温泉はどれくらいかかるのですか。うまく運営できるのですか。PFIでやった場合、町の初期投資はどれくらい。
- ・県下の自治体では、直営の温泉施設を無償で民間に移行しています。それでやっと採算がとれるくらい。PFIの仕組みとサービス料、ランニングコストを明らかにして。
- ・SPCが万一倒産した場合、借金は町にくるのですか。
- ・世の中すべて手を引いているのに、永平寺だけ進めている

◆議会への意見・要望とその回答

Q 温浴施設事業を実施するのであるなら、議員全体が保証するくらいの姿勢でやって。

A 議会では賛否両論がありますが、慎重に審議していきます。

Q 議員定数について、合併協議会の協定事項では18人であるが、勝山市、大野市に比べると18人では議会が問われる。今一度検討してはどうか。

A 合併協議会での18人は基本的に尊重するもの、他市町との比較からも16人とする議員もいるが、町民の声に対応できる議員数から考えると削減できればよいものではない。今後とも十分検討していきたい。

Q 議会の一般質問が長すぎるし、おかしきみっともない。レベルの高い質問をしてください。短いということは、職員を拘束せず仕事をさせることになる。

A 一般質問の時間は一人60分を原則とし、長くても90分としています。今後とも日々研鑽していきます。

Q 議会のケーブルテレビ放映は8回と多すぎる。

A ケーブルテレビ放映は、できるだけ多くの町民の方に議会の様子を知っていただきたいからです。

温浴施設には反対です。町民にアンケートを取っ下さい。もし、実施するのであれば行政が命がけでやってください。

・旧上志比村が手掛けた温泉だからやるのではおかし話。もっと別の活性化策を考えるべき。

・裁判員制度と町のかかわりは。

・越坂地区への道路改良を要望している。現道は入り口が狭いののに、越坂1丁目高層町営住宅を建設した。道路をつけてから建設すべき。

・人件費を自然減で減らし、その間採用しないということ、若者が職場にいなくなり、職員のモチベーションが上がらない。適正な採用を。

・三割自治脱却の方策や目標設定はないのか。

・財政状況が厳しい中で、外部委託を保育園、図書館等を将来的に全面委託してはどうか。

・地震、災害時の第一避難所である集会場が地震に耐えられるのか。町の問題として耐震診断を行う考えはないのか。

topic

議会行政視察 長野方面 平成20年11月13日～14日

議会では行政の直面する課題について先進地研修し、開かれた議会として、その機能を高め活力あるまちづくりと発展に期するため研修しました。

佐久市



広域消防

福井県の消防統合計画に対応するため統合に向けて大いに参考となった
佐久広域連合消防本部

予防医療地域医療

高齢化と増大する医療費に対応するため地域ぐるみの健康づくりの必要を確認した



佐久穂町

信州新町



地産・地消

食の安全安心が問われる現状に対応するため地域の産物を介した地域づくりが大きな活力をもたらす

信州新町地場産業開発センター

(写真撮影 河合永充)

編集後記

麻生内閣が誕生した頃から、米国の金融不安に端を発した、経済不況の波が全世界に広がりを見せている。我が国も、いろんな経済指数がドンドン悪化し、自動車産業や家電産業などをはじめ、国内のほとんどの産業が大きな影響を受けている。さらに雇用問題、格差問題などによる社会不安が懸念され、百年に一度と言っているが深刻度は増す一方である。

そのような中、政府は総額七十五兆円の経済対策を一月の国会に提案し、不況克服に懸命であるが、目玉の二兆円をかける「定額給付金」は、経費に八百数十億円もかかるため、どうも国民の支持は低いようである。今年の秋までには衆議院選挙が行われるので、与野党とも経済対策には白熱した論戦が今国会で戦われているが、国民の声を国会で反映して欲しいと思う。

本町も早いもので来春には町長選が、夏には町議選が行われるが、これからも町民の声を傾け、町政のチエックにあたる覚悟である。米国のオバマ新大統領のように「YES WE CAN」(我々には出来る)としたいものだ。
(小畑 記)

- 議会だより編集委員
- 委員長 小畑 正永
 - 副委員長 松川 直紀
 - 委員 小畑 正永、松川 直紀、金原 栄三、滝野 三喜、坂本 伊三、上野 誠雄、宮上 幹